

欧州研究機関現地学習

次世代の新しいデバイスに向けた研究開発の実態と、目的を明確にした基礎研究の現場を視察することで、カデットプログラムが目指す幅広い俯瞰力が活用されている実態を学ぶことを目的に、9月24日～28日、世界を牽引する研究機関である imec（ベルギー）、Holst Centre（オランダ）と Max Planck 研究所（ドイツ）を訪問しました。

今回の現地学習では世界を牽引する研究機関の取組みをそれぞれの機関の責任者から紹介され、研究が実施されている実験室や大型の施設を自分の目で見たことで、世界の最先端研究のスケールや実際の取組を実感出来たことが大きな成果となりました。また、これによりプログラムで求めている俯瞰力や複眼的思考力、企画力や対話力の意味やその具体的取組を実感として理解することが出来ました。また、日本の科学技術の現状課題に対する気付きを得るなど有意義な現地学習となりました。今回の現地訪問では本学 COI 推進機構の小倉教授にお世話になりました。



imec では最先端の半導体を中心とした研究開発の現状とそれを推進する体制について、Groseneken 所長から紹介いただき、クリーンルームや実験室を訪問して具体的な説明を頂きました。



Holst Centre では全体説明を受けたあと、Brongersma プリンシパルや Van Mol マネジングディレクターからプロトタイプを手にとって説明を聞くことでより深く内容を理解することが出来ました。



Max Planck 研究所では Blom 所長の全体説明の後に実験室でより具体的な説明を受けることが出来て研究のプロセスについても理解が深まりました。

以上